

第2章 各種事業の記録

1. 創立80周年記念事業

記録：創立80周年記念事業と新土木図書館・会館の改築

—推進者・協力（寄附）者一覧—

（文中の敬称略）

はじめに

土木学会では、創立以来、節目となる年に記念事業を行ってきた。1994年11月に創立80周年を迎えるにあたって、20世紀最後の周年記念事業となるこの機会を全会員参加の下に土木界が一体となって新たな発展の契機となることを目的とし、①単なる一通過点の事業ではなく後世にハード、ソフトのストックの学術資産として残るもの、②会員全員参加で実施する意欲が湧くもの、③社会一般に土木の世界をPRし理解を促進し得るもの、④海外の土木学会にも参加を呼びかけ国際化を支えるようなものを基本にした各種記念事業が実施された。

そのうち、1994（平成6）年11月に実施した記念式典、国際シンポジウム、祝賀パーティーなどを中心としたイベントについては「土木学会誌平成6年11月号」に掲載しているとおりである。今回、さらに関連事業として進められた新土木会館、土木図書館の施設拡充事業及び記念出版事業についてその成果をとりまとめ、また併せてご協力いただいた方々への御礼とご報告をさせていただくものである。

1. 準備委員会の答申と実行委員会の設置

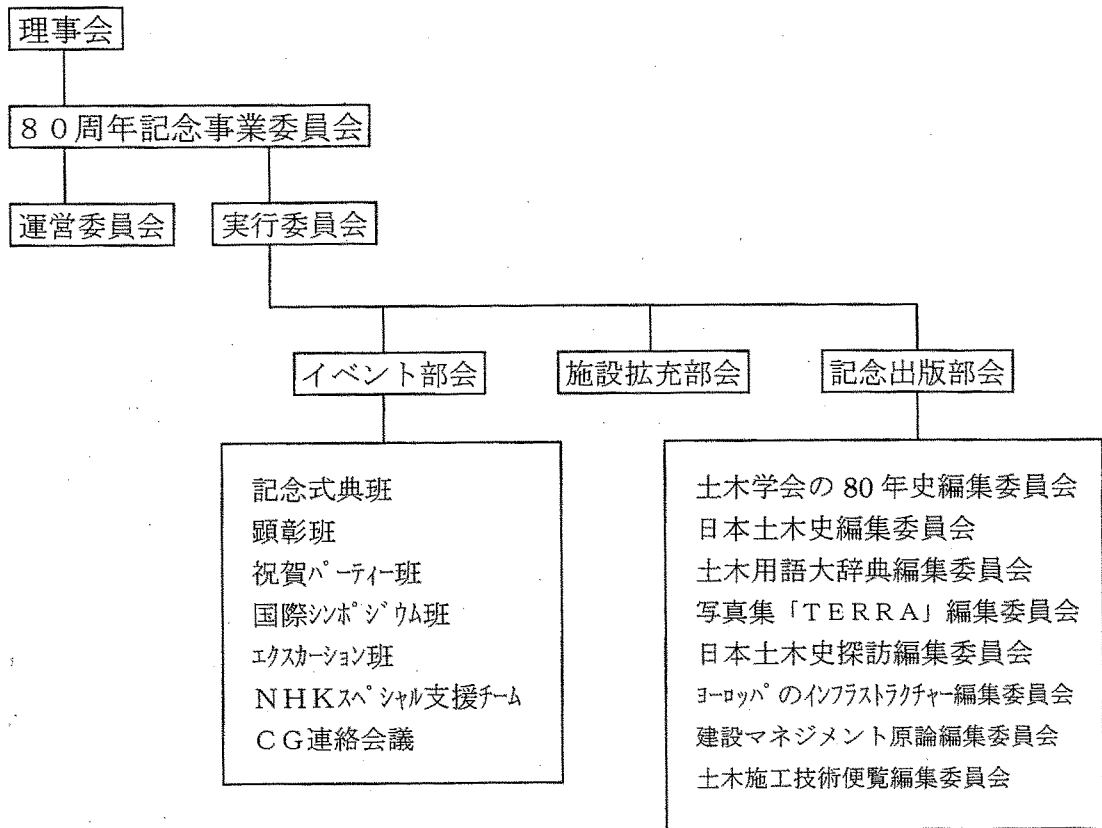
平成2年6月11日、平成元年度理事会から諮問を受けた「創立80周年記念事業に関する相談会（後、準備委員会。委員長：高橋裕）」が開催され、平成2年度第7回理事会（3.4.26. 開催日、以下同）に答申。続いて第8回理事会（3.5.10）で答申内容が承認され実行委員会委員長に中村英夫東京大学教授の委嘱が決定された。また平成3年度第2回理事会（3.7.26）において土木学会創立80周年記念事業の推進組織と各委員会構成を承認。運営委員会（委員長：長沢不二男）が募金計画を立案・推進し、記念事業会計全般を担当することが決定された。

2. 記念事業の規模、種類と推進組織

運営委員会と実行委員会（*1）は平成3年8月21日にそれぞれ第1回委員会を開催し、事業予算案（*2）を10億5,000万円とする大綱をまとめ、平成3年度第5回理事会（4.1.31）に提案。審議の結果、承認され、次の組織を置くことを決定（募金計画等は継続審議）した。

*1：中村委員長は第82代会長就任のため、松尾稔名古屋大学教授に委員長を交代（平成5年度第5回理事会（6.1.28）で承認。）

*2：事業予算は、以降、随時見直しが行われ必要な規模への修正が行われている。



3. 運営委員会と募金の開始

記念事業の大綱が定まったのを受けて平成4年12月11日に第1回創立80周年記念事業委員会が開催され、事業と予算、募金計画（3年分割納入等）について慎重な検討の後、記念事業の詳細と募金計画を作成。これを平成4年度第5回理事会（5.1.29）が承認。これに従って「創立80周年記念事業特別会計」の新設が決定された。次いで平成4年度第6回理事会（5.3.19）で運営委員会作成の「募金に関する趣意書及び依頼文」を協議決定し平成5年4月から募金が開始された。なお計画趣意書に掲載された所用資金（案）は、イベント関係：9,800万円、記念出版関係：4,200万円、施設拡充関係：8億円、諸経費：6,000万円、合計10億円としている。

※ 創立80周年記念事業報告は p.10～11 に示す。

4. 記念事業の概要

記念事業は、1. イベント、2. 施設拡充、3. 記念出版の3本を柱として計画され、それぞれ次のとおり実施された。

(1) イベント部会担当事業

① 記念式典

1994年11月25日（金）、パシコ横浜（会議センター）メインホール
14:00-15:00 式典（文部大臣、英国土木学会会長等祝辞）

15:00-15:40 顕彰（国際貢献賞、技術功労賞）

15:40-17:45 講演（基調講演：土木学会と土木事業の80年と今後に向けて、
中村英夫第82代会長）

（特別講演：日本の土木、司馬遼太郎）

② 顕 彰

80周年記念事業として新たに国際貢献賞と技術功労賞を創設。国際貢献賞は顕著な国際貢献をした者が対象。また技術功労賞は土木事業への地道な貢献をしてきた会員（または会員の推挙を受けた土木技術者）を対象とし、上記記念式典で表彰した。

③ 祝賀パーティー

1994年11月25日（金）パシフィコ横浜（会議センター）大会議室

④ 国際シンポジウム

1994年11月24日（木）～25日（金）パシフィコ横浜（会議センター）メインホール

メインテーマ：都市開発と土木工学—都市土木技術の課題と展望—

セッション 1：都市開発（コーディネーター 黒川 洸：筑波大学教授）

- ・都市開発と土木技術（黒川 洸）
- ・ラ・デ・ファンヌ—その見事な都市集積（P.Sertour：フランス ラ・デ・ファンヌ開発公社技師長）
- ・都市内公共土木施設の存在意義と期待される設計姿勢について（依田和夫：慶応義塾大学教授）

セッション 2：都市ウォーターフロント（コーディネーター 河田恵昭：京都大学教授）

- ・都市ウォーターフロントの再開発—治水と親水—（河田恵昭）
- ・ロンドンとバルファーストにおける治水・親水事業（G.Haider：イギリス GH コンサルタンツ社長）
- ・バンクーバー港とその周辺における土木工学的諸問題（M.R.Tarbotton：カナダ Triton コンサルタンツ）

セッション 3：都市環境（コーディネーター 松井三郎：京都大学教授）

- ・都市環境—水、地下水・土壌汚染、廃棄物の側面からの検証（松井三郎）
- ・都市の水代謝と水環境の変遷（丹保憲仁：北海道大学教授）
- ・地下水汚染の浄化促進のための代替技術—技術と分析（P.S.C.Rao：アメリカ、フロリダ大学教授）
- ・ドイツにおける廃棄物管理の現状及び動向（O.Tabasaran：ドイツ シュツツトガルト大学教授）

セッション 4：都市地下利用（コーディネーター 花村哲也：大成建設株式会社）

- ・都市の地下空間開発と技術革新（花村哲也）
- ・地下空間開発の現状と可能性（小澤良夫：日建設計株式会社）

- ・地下空間に関する米国の革新技术と開発動向 (H.H.Einstein : アメリカ MIT 教授)
- ・地下・地下空間開発のための新技术—NATM と TBM 技術の最新動向 (H.Wagner : オーストラリア Mayreder コンサルタント社長)

セッション 5 : 都市交通 (コーディネーター 森地茂 : 東京工業大学教授)

- ・都市交通問題と政策の変遷 (森地 茂)
- ・シンガポールの都市交通マネジメント (T.F.Fwa : シンガポール シンガポール国立大学教授)
- ・都市・地域交通管理と計画 (H.G.Retzko : ドイツ タムシュタット工科大学教授)
- ・都市交通—土木技術者の挑戦 : V.R.Vuchic アメリカ ペンシルバニア大学教授)

セッション 6 : 都市づくりと土木技術 (コーディネーター 高橋裕 : 芝浦工業大学教授)

- ・パネルディスカッション 座長 : 高橋 裕

パネリスト : 高秀秀信 (横浜市長)

西尾武喜 (名古屋市長)

笹山俊幸 (神戸市長)

木村 孟 (東京工業大学学長)

⑤エクスカージョン (11月25日実施)

首都高速湾岸線プロジェクト現場視察他3コース

⑥横浜地区関連イベント

- ・柴田敏雄写真展 (土木の日, 土木の週間行事. 11月23日—12月6日)
- ・CITY94(横浜市主催行事. 11月23日—11月27日)

⑦支部共同イベント

- ・北海道支部 (コンサート/映画会/展示会), 東北支部 (講演会/展示会/見学会), 関東支部(国際シンポジウム), 中部支部(講演会/コンサート/見学会), 関西支部 (シンポジウム/見学会他), 中国四国支部 (見学会他), 西部支部 (展示会他/見学会)。

⑧映像ドキュメント (土木学会が80周年記念事業の一環として番組の構想及び取材の協力。さらに建設9社によるCG連絡協議会がCG制作に協力。

○NHKスペシャル「テクノパワー／知られざる建設技術の世界」制作・協力。

—第1回：巨大水圧に挑む

—第2回：橋・より長く、より強く

—第3回：人工島・沈下との闘い

—第4回：トンネル・地底を支える

—第5回：巨大都市・再生への道

○ビデオ「土木の世紀」作成 (NHKエンタープライズ共同制作。上記「テクノパワー」のダイジェスト版。

(2) 施設拡充部会担当事業

①土木学術資料館及び関連施設の計画

20世紀の巨大プロジェクトの展開は、土木工学各分野の研究を進化・拡大し、土木技術を飛躍的に向上させた。これに伴う調査・研究の成果や事業の報告書など関連史・資料、文献等が膨大なものとなってきたが、これらの散逸を防ぎ、後世に引継ぐ必要のある貴重な学術資産を収集、整理、保管し、広く活用の道を開くために80周年記念事業の中心となる事業として施設の拡充が計画された。

②土木学術資料館の計画

四谷の土木図書館機能は継続させつつ、川崎市浮島地区に土木学会付属の施設として設立する。ここでは土木図書館に収蔵できない調査資料、工事誌、模型など貴重な学術資料を収集、保存するとともに土木文化に関する情報の集積・発信のネットワークの中心としての役割を果たすと共に、最新の技術情報発信、土木広報活動の拠点となる施設として計画された。なお学会の施設を中心としてインフラストラクチャー博物館(第3セクター)の建設推進やインフラパークとしての周辺整備などを構想し推進する。

③川崎市浮島地区での計画

土木学術資料館は川崎市浮島地区に川崎市が無償で提供する2,000㎡の土地(*)に建設する。この土地は川崎市の川崎臨海部イベント基本構想等検討委員会が川崎市長に答申した「スポーツ文化ゾーン」、「海上公園ゾーン」、「アーバンリゾートゾーン」と「インターチェンジゾーン」に区分された計画で「アーバンリゾート」の中心に位置する予定であった。

(*)平成3年10月に川崎市に浮島地区での学会施設建設に対する協力を要請。これに対し高橋川崎市長から12月2日付け要望文書「土木学術資料館(仮称)等の設置について」を受領。

④その後の経過と四谷での施設完成

以上が施設拡充部会における当初の構想、計画であった。その後、川崎市助役と土木学会専務理事との間で覚書が締結された約束事となって現在に至っているが、川崎市浮島地区の整備状況の遅れなどにより土木学会の努力のみではいかんともなし難い状況が続いたため、施設拡充部会は平成7年度第6回理事会(7.3.24)における80周年記念事業委員会解散承認の際、新たに施設拡充委員会を設置して事業を継続することを決定した。

(3) 記念出版部会担当事業

創立80周年記念出版物は下記8点を計画。それぞれの出版物ごとに編集委

員会を設置して事業を推進した。なお記念式典までに刊行できなかった出版物は平成7年度第6回理事会(7.3.24)においてその事業を出版委員会が継続することが決定された。なお記念出版物として刊行されたものは次のとおりである。

①土木学会の80周年(編集委員長:新谷洋二日本大学教授)

土木学会80年の正史として刊行。B5版500頁。平成6年1月24日発行。

②日本土木史—1966-1990—(編集委員長:高橋裕芝浦工業大学教授)

既刊の「明治以前日本土木史」、「日本土木史—大正元年～昭和15年」、「日本土木史—昭和16年～昭和40年」に続くもので本書によって有史以来昭和末期までのわが国の土木の歴史を通覧できる。B5版。2,026頁。平成7年7月31日発行。

③土木用語大辞典(編集委員長:五十嵐日出男北海道大学教授)

採録用語数24,000語。全見出し語英訳、主要3,000語見出し語の独、仏、中国に対訳表付。用語解説は重要度により特A、A、B、C4ランクで記述。

B5版1,656頁。平成11年2月15日、技報堂出版発行

④写真集「TERRA」—創景する大地—(編集委員長:中村良夫東京工業大学教授)

国土の現在を主題にして精力的な活動をしている写真家:柴田敏雄の写真に土木風景論からの解説を付した芸術と技術の語合い(叙事詩)。

A4変形、84頁。平成6年11月30日、都市出版発行

⑤人は何を築いてきたか—日本土木史探訪—(編集委員長:天野光三大阪産業大学教授)

現存する代表的な土木遺産を時代順に130件を取り上げ、建設の沿革と社会的背景、緒元と技術的特長、土木施設と自然的立地条件の関係を解説。

A5版、353頁。平成7年3月20日、山海堂発行。

⑥ヨーロッパのインフラストラクチャー—古代ローマの都市計画からエーデルンルまで1312件全がト—
(編集委員長:伊藤学埼玉大学教授)

紀元前のギリシャ・ローマ時代の都市造りから現代の多用な土木事業(工事中を含む)までを網羅的に紹介するガイドブック。

B5変形。423頁。平成9年5月30日発行。

⑦建設マネジメント原論(編集委員長:庄子幹夫鹿島建設株式会社取締役)

建設マネジメント理論の歴史と現状から、建設事業の執行過程、積算・支払い制度、さらに建設業に係る法体系、建設労働災害まで論を進めている。

A5版。371頁。平成6年12月10日、山海堂発行。

⑧土木施工技術便覧(編集委員長:黒澤重男株式会社大林組専務取締役)

土木施工に関する基本技術から最新の技術にいたる技術発展の背景や企業経営との関わり、さらに将来展望までをまとめた。

B5版。484頁。平成6年10月30日、オーム社発行

5. 創立80周年記念事業委員会の解散と事業の継続

平成6年度第6回理事会(7.3.24)において、終了した記念事業と継続中の記念事業の扱いについて協議の結果、次のとおり決定し、記念事業委員会を解散することを決定した。

- ①イベント関係事業は全計画を終了したので実行委員会を解散する。
- ②施設拡充関係事業は川崎市浮島地区の整備計画が未だ明確でないため継続事業とし、新たに「施設拡充委員会」を設置し、委員長に長瀧重義(東京工業大学教授)を委嘱する。
- ③記念出版関係事業は出版委員会に業務を移管する。

6. 新土木会館・土木図書館の改築

(1) 施設拡充委員会の結論

80周年記念事業の「施設拡充事業」を引継いだ施設拡充委員会は、川崎市浮島地区の整備状況からみて数年以内の施設建設が困難と判断し、土木図書館の老朽化、蔵書数の増加など様々な問題をこれ以上引き伸ばすことは出来ないとして、四谷の土地に土木図書館を建て替えるとともに、土木会館を全館リニューアルして、21世紀の学会活動の拠点として再整備する結論に至った。この結論は速やかに実行に移され、2000年1月に基本設計を開始、2001年6月着工、2002年5月に竣工を迎えた。

(2) 四谷の敷地の歴史的背景

東京都新宿区四谷の現住所の敷地は「平成7年3月」に国鉄精算事業団から買取り土木学会所有の土地となったが、この敷地は1956(昭和31)年に国の史跡に指定された史跡江戸城外濠跡、また都市計画緑地、風致地区に位置しているため、建物の形態、高さ、床面積、構造等に厳しい制限が設けられていた。このため建築計画にあたっては学識経験者、文化庁、東京都教育委員会の指導を仰ぎ、築濠石垣や民家の生活遺構などを調査するとともに将来の外濠復元に際する調査・構築方法などでの全面協力を約束し建設許可を得た。新土木図書館の外観は既存土木会館の意匠を踏襲。周辺環境との調和を考えたデザインとするとともに、施設の一体的利用による全体的な機能アップが図られた。

(3) 新土木会館の概要

新土木会館建設にあたっては、古くなった施設の機能回復・拡充・充実、土木界の中心施設として土木学会活動の活性化、会員サービスの向上と社会貢献の促進を図ることを基本コンセプトにして、①会員が集える空間としてのロビーの多機能化とバリアフリー化、②1か所に集約された効率的な執務空間の整

備、③最大7室に分割活用可能な会議室と各種OA機器常備の最大180席の講堂等の整備を行なった。

新土木会館は土木図書館と一体化し、断熱性や耐久性を高めるためのレンガ積み外壁とフッ素樹脂コーティングの屋根、二重サッシと復層ガラスの窓、内外装材には可能な限り自然素材を選択し有害物質を排除した建設材料の採用、シンボルの柳を保存したエントランス等の全面的な外構の再整備が行なわれた。

(4) 土木図書館の概要

土木図書館は会員のために、社会貢献のために、情報化時代に適応した土木図書館であることを基本にして、①収蔵と防災の能力アップ、②時代に即したデジタル化、③機能もネット対応も充実されたものとなった。

現在 46,000 冊の蔵書数を基本に 20 年先の予想数約 65,000 冊を収蔵できる能力を確保しその保護のための全館湿度コントロール可能な空調設備と防火壁の採用、蔵書の効率的検索システムや情報コンセントのあるキャレル机、会員のパソコン利用のためのスペース等の充実、利用者が直接閲覧可能な約 13,000 冊及び新着雑誌約 210 誌を配置した開架書架、20 席の閲覧席、ネットを利用者したサービスの充実などが図られた。

7. 事業を推進された組織と会員

平成2年6月の記念事業に関する相談会から平成14年5月の新土木会館・土木図書館の竣工に至る間、事業に関与された組織及び会員は次のとおりである。

- 理事会 (H2～12)
- 記念事業委員会
- 運営委員会
- 実行委員会
 - ・ イベント部会 (総務小委員会、国際シンポジウム小委員会、式典小委員会、パーティー小委員会、支部イベント小委員会、テレビ小委員会、CG連絡会議)
 - ・ 施設拡充部会
 - ・ 記念出版部会 (土木学会の80年、日本土木史—1966-1990-、土木用語大辞典、風景回廊、土木遺産でみる国土形成の歴史、ヨーロッパのインフラストラクチャー、建設マネジメント原論、土木施工技術便覧の各編集委員会)
- 施設拡充委員会
 - ・ 四谷施設WG
- 80周年記念事業資金寄付応募者芳名録 (平成5年9月30日受付分・個人)
- 80周年記念事業資金寄付応募者芳名録 (平成7年3月31日受付分・個人)
- 80周年記念事業資金寄付応募者企業名 (平成7年3月31日受付分・法人)
- 土木会館改修とそれに伴う環境整備寄付応募者芳名録 (平成14年6月28日受付分・個人他)

以上

創立 80 周年記念事業委員会

1993～1994 竹内 良夫 (竹内良夫事務所)

1994～1995 中村 英夫 (東京大学)

創立 80 周年記念事業

6.11.24～25 横浜国際平和会議場

- 1) 国際シンポジウム (6.11.24～25) メインホール 参加者：429 名
 - ①セッション 1：都市再開発
 - ②セッション 2：都市ウォーターフロント
 - ③セッション 3：都市環境
 - ④セッション 4：都市地下利用
 - ⑤セッション 5：都市交通
 - ⑥セッション 6：パネルディスカッション「都市づくりと土木技術」
- 2) 記念式典 (6.11.25) メインホール 国内外招待参加者：107 名 参加者：680 名
 - ①式典：式辞 中村英夫 (土木学会会長)
来賓祝辞 岡村 豊 (文部省学術国際局長) (代読) 本島令己
石川六郎 (日本工学会会長)
Stuart Mustow (英国土木学会会長)
高秀秀信 (横浜市長)
 - ②顕彰：「国際貢献賞の授与」 受賞者：L.S.Beedle, 西野文雄, 山口正史
「技術功労賞の授与」 受賞者：奥園誠之, 佐々木恵一, 菅原一晃,
玉木 稔, 二階堂武昌, 濱田達幸
 - ③講演：基調講演：「土木学会と土木事業の 80 年と今後に向けて」 中村英夫 (土木学会会長)
特別講演：「日本の土木」 司馬遼太郎
- 3) パーティー (6.11.26) パシフィコ横浜 約 1,200 名
 - ①開演挨拶：主催者代表 芳村 仁 (土木学会副会長)
 - ②祝辞：外国協定学会招待者代表 Stafford E. Thornton (米国土木学会会長),
野坂浩賢 (建設大臣) (代読) 藤井治芳
 - ③乾杯：細谷治通 (運輸省政務次官)
- 4) エキスカーション
 - ①A-1：首都高速湾岸線建設プロジェクト現場視察 (6.11.25) 参加者：42 名
 - ②A-2：横浜港視察 (6.11.25) 参加者：65 名
 - ③A-3：みなとみらい (MM21) 地区視察 (6.11.25) 参加者：62 名
 - ④A-4：東京湾横断道路人工島の現場視察 (6.11.25) 参加者：54 名
- 5) 支部共同イベント
 - ①北海道支部
「コンサートと映画の集い」 (6.9.15) 道新ホール 参加者：700 名
 - ②東北支部
講演会「都市生活と環境問題～21 世紀の都市環境づくりを目指して～」 (6.11.27)
仙台国際センター 参加者：65 名
見学会「私達の生活を支える土木技術者の見学会～自然と人工の調和を目指して～」
(9.14 青森 参加者：高等専門学校生 40 名)
(10.5 青森 参加者：市内小学校児童 40 名, 先生 10 名)
(10.16 秋田 参加者：市内一般市民 80 名)
(10.16 仙台 参加者：市内一般市民 137 名)

③関東支部

関東支部創立 30 周年記念「国際シンポジウム」(6.11.23)

パシフィコ横浜 参加者：約 300 名

④中部支部

講演とパネルディスカッション「ふれあいとゆとりへの道しるべ」(6.11.30)

名古屋市役所 参加者：461 名

⑤関西支部

「クルージング&ブリッジコンテスト」

・ミステリアスクルージング(6.11.20) 参加者：700 名

・講演会「都市内交通：交通技術者の新しい挑戦」(6.11.21) 参加者：70 名

・シンポジウム「どぼく・とおく'94FCC(フォーラムシビルコスモス)：但馬空港」
(6.11.26) 参加者：100 名

⑥中国四国支部

「瀬戸内クルーズと記念講演」 参加者：中国地区 105 名,四国地区 110 名

・記念講演「瀬戸内 3 橋時代と中国四国地方の活性化について」(6.11.10)

⑦西部支部

・「シンポジウム(土木技術の歴史的意義)」

(6.11.18) 福岡ガーデンパレス

・「土木フェア-In SAGA」(6.11.19~23) 参加者：83,100 名

・「見学会(竜門ダム,鯛生金山,下塗ダム,松原ダム)」(6.11.15) 参加者：一般市民 100 名

6) 関連行事

「CITY'94(Civil Engineering—Innovation & Technology, Yokohama '94)」

横浜市主催(土木学会共催)(6.11.23) パシフィコ横浜